

La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第294号

2019年11月5日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニブル新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」



◀◀ 目次 ▶▶

第106回日本エスペラント大会にて（山口眞一）	2
第68回東海エスペラント大会報告（山口眞一・湯浅典久）	3
文芸コンクールに入賞して（山田義）	6
センターの蔵書から（4）（山田義）	8
活動日誌.....	9
今後の活動予定	10
電子辞書『エスペラント日本語辞典（第2版）』	10
Mia vojaĝo en Eŭropo en 2019 (1) (Huĝimoto Hideko).....	11
Vidindaj Lokoĵ en kaj ĉirkaŭ Nagojo (4) (Suzuki Joŝihiko)	15
Prelego de Deguchi Kyotaro (Nakayama Akiko)	17
編集後記.....	17
ザメンホフ祭案内	18

第106回日本エスペラント大会にて

山口 眞一

公式サイトには次の報告があります。

JEI創立100周年記念第106回日本エスペラント大会は、10月12日、13日、14日の開催予定でしたが、台風19号直撃のため、12日は全番組を中止。13日は公式には午後3時以降の番組のみ、14日は予定通り実施いたしました。

たいへんな困難な状況の中、会場へお出でくださったみなさまに感謝いたします。参加登録者数459名のうち、実参加者は235名でした。

<https://www.jei.or.jp/evento/2019/jek/>

大会そのものを中止にするか、部分的にでも縮小開催するか、ぎりぎりの決断が迫られるなかで、実行委員会は後者を選択しました。対応が遅いと批判の声があがったのは事実ですが、これは止むを得ないことだったのではないかと私は思います。すっぱりと中止にしてしまうことは簡単でしょうが、およそ2年をかけて準備してきた大会です。それをなしにしてしまうことは心中察するにあまりあります。また台風が過ぎた後半日程は無事に開催できたのですから、もし全日程を中止していたら、それはそれで批判を招いたことでしょう。

この事例から、来年の日本エスペラント大会についても考えておくべきことがあるでしょう。それは「災害はいつ、どんなかたちで起るか分からない。想定しておくことは必要だけれども、過去に例をみない災害もありうるので、すべてを想定するわけにはいかない。むしろ柔軟な対応をとることを念頭におくべき」ということです。

さて、この大会には名古屋エスペラントセンターから数名のメンバーが参加しました。中には、参加をあきらめた方もいらっしゃいますが、多くは寸断された電車を乗り継ぎながら13日の午後からの参加となりました。ただ、センターとして企画していた「図書館分科会」（12日開催予定）は取りやめざるを得ませんでした。

しかしサロン（大部屋）では、予定通り第107回日本エスペラント大会の受付ブースが設けられ、堀田裕彦・有理、湯浅、猪飼、山口が交代で受付業務を行いました。ここでは合計で41名の参加登録をいただきました。また閉会式では、山口が、次期大会へ引き継ぐ大会旗を、第106回大会実行委員長の石川智恵子さんから受取りました。

第68回東海エスペラント大会報告

山口眞一・湯浅典久

第68回東海エスペラント大会は10月26日（土）、名古屋市栄にあるアートピア（名古屋市青少年センター）にて、19名の参加をもって開催されましたので、以下に報告をいたします。

名古屋エスペラントセンターが主催者となって東海大会を開催したのは久しぶりで、企画担当者である私自身が、地方大会の準備に関わること自体が初めてであったため、何かと行き届かないことがあったと思いますが、他のスタッフに助けられて何とか運営できました。参加者の皆様にも感謝いたします。

プログラムは下記のとおりでした。

総合司会 湯浅典久

- 09:00 開場・受付
- 09:30 開会あいさつ（名古屋エスペラントセンター委員長・山口眞一）
メッセージ披露（日本エスペラント協会理事長・鈴木恵一朗）
- 09:40 大会協議会（第107回日本エスペラント大会実行委員会公開会議）
- 11:30 記念写真
- 11:40 昼食
- 13:00 シンポジウム「2020年代のエスペラント運動を語る」
基調講演：永瀬義勝／パネリスト：田平稔・山口眞一・堀田裕彦
司会：伊藤俊彦
- 14:30 休憩
- 14:45 講演1「私とブロンシュテイン」（永瀬義勝）
- 15:15 講演2「Mia sperto en ĉi-somera Eŭropo」
（私の今夏ヨーロッパ体験）（永瀬義勝）
- 16:15 アピール・お知らせなど
- 16:45 休憩
- 17:00 ミニトーク「エスペラントを学んで感じること」（講習生）
- 18:00 ランスエスペラント会とスカイプ交流会
- 18:30 閉会挨拶（山口眞一）
- 19:00 懇親会 鶏居酒にて

以下に簡単ではありますがプログラムにそって報告します。（エスペラントはEと略し、人名の敬称は省略しました）

本大会にゲスト講師として招いていたミカエロ・ブロンシュテインは、日本E大会後に日本各地を回って講演あるいは演奏する予定でしたが、残念なことにご家族の不幸のため、10月20日に急遽帰国しました。そのためにプログラムを当初よりも大きく変更しました。

大会協議会は、第107回日本E大会実行委員会の公開会議をかねるかたちで行われ、主として、公式ゲストに誰を招くか、大会前後の遠足計画、個々の番組の内容検討、広報の方法、後援団体などについて話し合をしました。

午後からのシンポジウムでは、基調講演として永瀬が、全体的な立場から自分の思い（Eを文化として楽しむことなど）を話しました。次に田平稔は教職の現場で子供たちにEを伝える方法について、山口眞一は日本大会後の地域の活動のあり方について、堀田裕彦は広報において意識しなければならないことについて、それぞれに提言を行いました。

講演1では、ミカエロ・ブロンシュテインによる日本大会時の講演の音声の一部および日本語要旨を永瀬義勝が紹介する予定でしたが、ブロンシュテインとの出会いから始まり、人となりや活動について報告しました。

講演2「Mia sperto en ĉi-somera Eŭropo」。永瀬義勝が、世界大会参加からSATの大会、スペインでの大会、名古屋の姉妹都市ランスE会訪問等、長期間にわたる旅行について失敗談を含めてEと日本語で話しました。

アピールでは、伊藤俊彦がブロンシュテインの著書の書評について話しました。「斎藤秀一師に学ぶ会」会長の別府良孝は、斎藤秀一の伝記『特高に奪われた青春』を参加者に提供するとともに来年の日本大会で斎藤秀一に関する分科会を開く予定で応援を依頼されました。

ミニトーク「エスペラントを学んで感じる事」では三人の講習生から、次のように語っていただきました。



今井田健二

Eを知ったのは、20年位前に「世界ふしぎ発見」というクイズ番組の問題「世界平和のためにポーランドであるものが作られました。それは何か」の答えが「言葉が作られた」ということに衝撃を受けました。2～3年前にEの学習を再開しました。Eが相互理解のための言語であると確信を深め、いろんな社会問題にも興味を持つようになりました。今後の目標は、Eに関することをEで読むこと、ザメンホフの墓参りをすること、3歳の娘にEを教えることです。

内藤恵子

Eとの関わりは、東日本大震災時に実家にあった余分の食器類を被災地に送ったことから始まります。その後、ラジオ深夜便で知った被災地の唐丹希望基金の活動を通じて堀泰雄氏との交流を深めE学習に進みました。好きな言葉に「もしすべ

ての子供がEを学ぶことになれば、平和が永久に続くでしょう」があります。この言葉をメッセージにしてネパールのヒマラヤレンコンティージュにも参加しました。Eを知ることによって世界が広がりました。

水谷良典

Eは大本の活動を通じて知りました。昨年からE学習を再開しました。ベテランと一緒に韓国鉄道合宿、フィンランドのUK、ポーランドにも行ってきました。UKで初心者の方にスピードを落として話をしてくれたことに感心しました。目標は、UKにも参加し、世界各地の人々と飢餓、戦争等、世界平和のためのお手伝いしたいと思っています。



スカイプ交流会では、パソコンとプロジェクタを接続し、ランス側の様子を部屋の壁に大写しにしながら、個々の参加者が自己紹介をし、ついでそれぞれの会の概要を紹介しあい、また来年の日本大会に、名古屋の姉妹

都市ランスからは是非参加してほしいと伝えました。ランス側参加者は10人ですが、この日はたまたま近くのシャロン＝アン＝シャンパーニュの会と合同でセッティングされていました。

最後の懇親会では12人が参加して歓談をしました。



文芸コンクールに入賞して

山田 義

今年のエスペラント文芸コンクールに応募して、発表を楽しみに待っていたところ、今年の日本文学のエスペラント大会（さいたま）開催の少し前に日本エスペラント協会の事務局から入賞の知らせをいただきました。副賞として3万円がいただけるそうである。エスペラント界で公式に競うことに挑戦したのは初めてのことです。妻に笑顔を見せながらいま受け取ったメールのことを告げると、落ち着いた声で「今年はそんなに応募者が少なかったんですね」と言われ、私は倒れそうになりました。

今回は日本文学のエスペラント訳という部門に応募しました。それを後押ししてくれた人が3人います。心からその方々にお礼を言います。

最初の人のは的場勝英さん。私が編集している LA VERDA HERBO 誌で内村鑑三の著作をエス訳して投稿してくれた方です。的場さんはトルコ人による国際エスペラント誌“Turka Stelo”にも日本の歴史や文化について投稿しています。私に、今まできちんと読んでなかった『余は如何にして基督信徒となりし乎』（日本語訳）を読むきっかけをくれました。

二人目は掛川の石川一也さんです。安部公房の「砂の女」を訳す課題を毎月少しずつ会員にメールで送ってくれます。途中からですが私も挑戦しています。添削があるのではありませんが翌月には挑戦者数人の翻訳例を見せてもらえます。日本の現代文による文学をエスペラントに翻訳することは自分には関係のないものと今まで思い込んでいましたが、石川さんたちと訳例を提出しあっている内に翻訳に関心を向けるようになっていきます。

そして、あの堀泰雄さんから次のようなメールが一斉配信で届きました。

皆さんへ

日本大会では、文芸コンクールが行われます。

エスペラントの文芸が栄えないことには、エスペラントの発展はない、とザメンホフは言っています。ところで、日本のエスペラント文学はどうでしょうか。毎年このコンクールには、応募者は、大体5人以下で、時には、もっと少なくて情けないような人数の時もあります。

私は、何年か前に、枯れ木も山のにぎわいと応募したところ図らずも一等賞になり、賞金3万円をいただきました。それ以後、これでお終いではないかと、毎年「原作部門」で応募し、ここ3年ほどは、「翻訳部門」にも応募するようになりました。でも、毎年、応募作品が少ないことをとても残念に思っています。

エスペランティストなら、だれでも、他の人に話してみたいような感動的な出会いや体験をしているのではないのでしょうか。そんな体験を、エスペラントで

書いて応募してみませんか。また、好きな作家の短編などもあるのではないのでしょうか。それを翻訳してみませんか。

あなたのこうした試みが、エスペラントとその運動を発展させることになります。「才能がない」「能力がない」など卑下しないで、取り組んでほしいです。

...というのです。

ネットの中で「問答二、三」という文語体の著作を見つけ取り上げました。日本のキリスト教宣教を心配する質問と答えです。文語体で格調のある文体です。今まで読んできた文語体の日本語聖書やエスペラントの *la Nova Testamento* の言い回しが参考になりました。Wikipedio の記述も助けになりました。

来年は名古屋で日本大会があります。堀さんの言うようにもっと多くの人が原作や翻訳に挑戦しエスペラント文芸に興味を持つ人が増えるようにと、届いた *Diplomo* を載せます。日本エスペラント協会の理事長鈴木恵一朗さんの署名があります。ホームページによると「2019年 JEI文芸コンクール」は「JEI研究教育部」が開催し、応募先は「JEI内文芸コンクール係」、審査は「JEIが委嘱した審査委員」とあり、入選の発表と表彰は「日本大会内」とあります。今までの入選者や作品をネット上で探しましたが容易には見つかりませんでした。



3 tradukoj de Kimigajo

山田 義

本誌291号(2019年3月)で、「戦前の絵葉書に「君が代」の訳詞」と題して今まで私が見つけた訳詞を2つ紹介した。小坂狷二のものと、小西岳のもの。

そこに今回、センターの、古い雑誌が積み込まれた棚から初めて見る歌集を見つけたので紹介する。ガリ版刷りの22ページ、縦24cm。"Esperantaj Kantoj" Unua Kolekto 1932 である。昭和7年エスペラント普及会の発行で著作兼発行人が廣瀬武夫としてある。この歌の本は、La Espero から始まり我が国の音楽教科書などで歌いなれた外国の歌のエスペラント訳が楽譜付きで印刷しており、日本の歌が2曲載っている、荒城の月と巻末に君が代である。この訳は小坂狷二のものとは別。訳者名は明記していないがこの本を出した廣瀬武夫という人であろうと推察する。この人の名は、残念だが、日本エスペラント運動人名辞典に記載がない。

Glora regad' de Mikad',
daŭradu al ni centmiljarojn,
ĝis sabloj kreskiĝos,
je en fortajn rokarojn
kaj verda per musko kovriĝos.



これで“La Informilo de NEC”では Kimigajo の訳詞を3つ、そして、蔵書の中から見つけた la Espero の詩につけた曲3つを紹介することができた。

活動日誌（8月から10月）

- 8/6（火）19時から21時 初級講習会（作文会話）
8/7（金）17時から18時 「センター通信」 発送作業
8/7（金）18時から20時 センター委員会
8/9（金）17時半から19時半 中級講習会
8/10（土）15時から17時 第107回日本エスペラント大会実行委員会会議
(栄メンバーズオフィス)
8/23（金）17時半から19時半 中級講習会
8/28（水）16時から18時 読書会（えほんのもり）
9/1（日）15時から18時 第107回日本エスペラント大会実行委員会会議
(栄メンバーズオフィス)
9/4（水）18時から20時 センター委員会
9/5（木）19時から21時 初級講習会（講読）
9/10（火）19時から21時 初級講習会（作文会話）
9/13（金）17時半から19時半 中級講習会
9/25（水）16時から18時 読書会
9/26（木）19時から21時 初級講習会（講読）
10/4（金）17時半から19時半 中級講習会
10/5（土）15時から18時 第107回日本エスペラント大会実行委員会会議
10/9（水）18時から20時 センター委員会
~~10/12（土）・13（日） ワールドコラボフェスタ（台風のため中止）~~
10/13（日）・14（月） 第106回日本エスペラント大会（埼玉会館）
10/18（金）19時から21時 初級講習会（講読）
~~10/20（日）14時から18時 入門講座（受講無し）~~
10/23（水）16時から18時 読書会
10/26（土）第68回東海エスペラント大会（アートピア）
(太字の項目は、別途報告があります)

初級講習会について（続）

作文会話教室は9月10日をもって、また講読クラスは10月18日をもって終了しました。合計で8回の開催でした。今後受講生の皆さんにはそれぞれに独学、または中級講習会で継続していただくことになります。

今後の活動予定

第3期入門講座

ワールドコラボフェスタにおいてチラシを配る予定でしたが、中止になったため宣伝ができず、第1回（10月20日）には受講予約がありませんでした。しかしその後新たに受講希望がありましたので、第2回以後を、本誌前号に記載の通り開催します。

ザメンホフ祭

詳細は本誌最終ページで

電子辞書『エスペラント日本語辞典（第2版）』 — LogoVistaから11月13日発売 —

ロゴヴィスタ株式会社（LogoVista）は、日本エスペラント協会のライセンスを得て、電子辞書『エスペラント日本語辞典（第2版）』を、11月13日から販売開始します。価格は5,049円ですが、同社ヘユーザー登録すると4,455円になります（いずれも税込・送料別）。日本エスペラント大会参加者あるいは日本エスペラント協会会員の場合、同協会へ注文すると4,000円（税別・送料別）になります。

この辞典は、見出し語総数43,817語、用例は38,000例以上を収録しており、主要な外国語辞典に劣らないだけの高度な学習辞典として、多くのエスペランチストに愛用されています。それがそっくりそのまま電子辞書になったのですが、電子辞書には検索機能がありますので便利です。初心者には接頭語・接尾語・合成語の切れ目が分かりにくいことがあり、語根が分からないと辞書のどこを探してよいか分からないことがあります。電子版だと、合成語をまるごと入力すればすぐに語根を探し当てることができます。検索履歴や付箋機能など、通常の電子辞書機能もふつうに使えます。

残念なのはWindowsにしか対応しておらず、Macでは使えないことです。



Mia vojaĝo en Eŭropo en 2019 (1)

Huĝimoto Hideko

Antaŭ ĉio

Jam kvar fojojn mi daŭre partoprenis en UK, tio estas sufiĉa por mia esperanta vivo por ĝui Esperanton; komence mi pensis tiel, sed mi denove planis partopreni en ĉi Lahtia UK en Helsinko pro unu misio, kiu estis donacita de mia amiko.

Tiam, kiam mi vojaĝas al eksterlandoj, mi kutime pli ol tri semajnojn restadas en ĉirkaŭaj landoj de la UK por interamikiĝi kun surlokaj esperantaj geamikoj.

Mia vojaĝo ĉi-jare povas dividiĝi en tri partojn.

La unua vizit-parto estis en Litovio, kie okazis la BET-55¹ dum unu semajno.

La dua vizit-parto estis vojaĝo al Helsinko dum unu semajno, vizitante kelkajn vizitindajn lokojn kaj landojn karavane kun multaj esperantistoj, kiuj partoprenis en BET-55 per buso kaj ŝipo.

La tria vizit-parto estas en Lahtio, Helsinko, kie okazis UK2019.

(1) La 55-aj Baltiaj Esperanto-tagoj

En la 5-a de julio, matene, mi kaj sinjorino Mizutani ekflugis de Nagojo al Riga tra Helsinko. Tre agrable ni atingis Helsinkon je la 14:30. Por celi al Litovio, kie okazos BET-55, ni devis ŝanĝi aviadilon. En flughaveno Helsinko troviĝis multaj homoj, nur aŭdiĝas nekonataj lingvoj, kvankam ni sentis nin maltrankvilaj, tamen ni iel atingis atendejon al Riga, la plej malproksime de la centro, kie fremdaj lingvoj estis multe parolataj, japanoj neniuj, niaj koroj fariĝis duone malkuraĝaj. Tiam mi aŭdis ian voĉon, iu viro vokas min de kontraŭa flanko, "Sunjo! Saluton!" Kiu? Kie? Ĉu mi?... Oh! Emisto! Koreo vokis min! Kiel feliĉa, mia koro fariĝis trankvila kaj emocia! Post li multaj koreaj esperantistoj venis! Ni salutis kaj brakumis reciproke, vere mi sentis solidarecan feliĉon. Tie aperis esperantan komunumon. Ni fiere babilis Esperante, ĉirkaŭite de multaj eksterlandanoj. Ni prezentadis nin reciproke kun nekonataj esperantistoj ĝis preni aviadilon. Nia flugilo estis malgranda kaj ĉarma, sed sidejo estis plenplena de vojaĝantoj. Post unu horo ni atingis flughavenon Riga, kie ni disiĝis kun koreoj, promesante, ke morgaŭ ni renkontiĝu en la kongresejo. Ĉe la flughaveno Riga nin atendis mia amikino, Lydia el Estonio. Ni trio prenis vespermanĝon. Estis feliĉe, ke kafo estis ne nur bele bongusta, sed ankaŭ plena en granda taso. Ni iris per aŭto al hotelo. Survoje ambaŭflanke de la ŝoseo ni vidis belajn arbojn de betulo. Estas la unua tago de mia esperanta vojaĝo en Riga.

En venonta mateno, la 6-an de julio (sabato) ni iris al grandega bushaltejo, de kie ni direktiĝis al Panevezys, kie troviĝis kongresejo (Kaŭna Teknologia-universitato). En la buso estis multaj Esperantistoj el diversaj landoj. Mi tuj amikiĝis kun ili. Maltrankvileco nenie estis! Ja, Esperanto estas magia lingvo!

¹ BET-55 estas la 55-aj Baltiaj Esperanto-tagoj ; Esperanto-renkontiĝo organizata ĉiujare en iu el la apud balta-maraj ŝtatoj, laŭvice en Latovio, Litovio kaj Estonio.

Ĉirkaŭ du horojn bezonis por atingi bushaltejon de la Universitato, kie nin atendis karaj helpantoj kun du busetoj. Ili gvidis nin al la akceptejo, kie ni ricevis dokumentojn por la kongreso kaj atingis loĝejon, universitatan ĉambron. Ni, Lydia, Mizutani kaj mi fine sidis en nia bela nesto kun necesejo kaj banejo. Matenmanĝon, tagmanĝon kaj vespermanĝon partoprenantoj kune prenis en la manĝejo studenta.

De la 19:30 okazis komuna organiza kunveno de Bet-anoj ĉe ĉefsalono. De la 20:00-21:00 okazis koncerto de Natalia Bertse. Estis mirinde, ke 425 esperantistoj aliĝis en BET-55 el 37 landoj. (Litovio 107, Pollando 64, Koreio 38, Francio 22, Ruslando 24, Latovio, Germanio, Belgio, Hungario, Ukrainio, Estonio, Svedio, Ĉeĥio, Nepalo, Hispanio, Belorusio, Ĉinio, Finnlando, Pakistano, Uzbekio, Usono, Aŭstrio, Bulgario, Danlando, Israelo, Kanado, Svislando, Japanio, Italio, Kazahio, Kubo, Nederlando, Niĝerio, Slovakio kaj Togo k.t.p.)

Estas granda nombro! De morgaŭ ni kune loĝos, kune manĝos, kune partoprenos en multaj allogaj programeroj. Kompreneble ĉiutage luksa informilo de BET-55, titolita "Abelo", estas disdonita same kiel UK.

La 7-a de julio (dimanĉo)

De la 9:00 okazis organizaj kunvenoj por anonci kaj klarigi programerojn, kiuj okazos dum kongreso.

Buntaj kaj enhavoriĉaj programeroj komenciĝis, Somera Universitato, kvar prelegoj, la unuaj lecionoj de ĉiunivelaj Esperanto-kursoj. Mi ĉeestis en la prelego de D-ro Gabor, sekve profesorino Ilona.

De la 15:00 ni havis Solenan inaŭguron de BET-55, en la urba Komunuma centro. Sekvis la koncerto por ĉiuj BET-anoj kiel urbestra akcepto, kun riĉaj, tre luksaj belegaj manĝaĵoj kaj trinkaĵoj. Ni estis feliĉaj amuze kaj ebriete ĝuis solenan tempon, tiam mi rememoris, kiam ni vizitis la urbodomom de Bulonjo ĉe maro, okaze de la 100-jara jubileo de Esperanto, ties urbestro atendis nin per tiel belaj kaj riĉaj manĝaĵoj kun vino.

De la 21:00-22:00 koncerto de la grupo "Sepa kaj Asorti"

Estis surprizite, ke multaj prelegoj estis seriaj, por mi estis la unua fojo sperti tiajn. La titolo de Gabor estis "Ĉu Esperanto pli bonigis/os la mondon?", la unua prelego estis "De animala ekzisto ĝis diiĝo". La titolo de Ilona estis "Lingvo kaj kulturo", la unua prelego "Interkultura komunikado kaj Esperanto".

Reveninte ĉambron ni parolis pri hodiaŭa afero reciproke, ni enlitiĝis malfrue kaj endormiĝis profunde.

La 8-a de julio (lundo)

Dek tri prelegoj troviĝis. Mi nur citas ties prelegantojn: profesorojn doktorojn Aloyzas Gudavicius, Amri Wandel, Gabor Markus, Ilona Koutny, Yves Nevelsteen, Walter Zelazny, Lee Jungkee, Orlando Raola, Anna Striganova, Gong Xiaofeng, Aleksandr Melnikov, Dima Sevcenko. Alie ĉiunivelaj Esperanto-kursoj kaj vespere ni havis koncertojn. Verdire hodiaŭ mi ekskurse vojaĝetis kun koreoj luante

buseton al Vilnius en Litovio. Vere ni vizitis nur parton de tiu ĉi urbo, kies aspekto estis ĉarma, bela kaj eleganta, similis al okcidenta Eŭropo. Unue ni promenadis laŭ la ĉefstrato kaj eniris en grandan eklezion, regis granda silenteco interne kaj troviĝis multaj valoraĵoj, la vitralo estis tiel bela, mi senkonscie fotis ilin. En iu strato ni trovis rekomenditan restoracion de koreo, kiu nun loĝas en Litovio, kies muro estis kovrita de briko, atmosfero estis kiel kelo, ŝajne speciala etoso. Ni bonguste kaj elegante prenis pladojn kun vino. Poste ni serĉis butikojn por linaĵo, kiu estas speciala produktaĵo de ĉi tiu urbo. Por donaci al homoj en hejmloko mi aĉetis sakojn el speciala lintolo en Litovio. Kaj multe promenadis vojon tien kaj reen butikumante sencele. Surstrate multaj sukceloj estis montritaj ĉe vitroŝrankoj. Verdaĵo de arboj estis karesema, konstruaĵoj gravuritaj estis arte belegaj, rivero donis al ni trankvilon. Kunkontente ravita koro ni ĝisrevidis al la urbo Vilnius. Kaj revenis al nia kongresejo al nia nesto. Jam mi ne havis forton ĉeesti en iu nokta programero de la kongreso. Tuj enlitiĝis, "Bonan nokton".

La 9-a de julio (mardo)

Ĉiuj programeroj komenciĝis de la 10:00.

Hodiaŭ, dekdu prelegoj okazos. Kiel multaj! Alie, Ĉiuniveraj Esperanto-kursoj. Seminario de Pavla "Ĉu muziko povas kuraci?", Intelaktaj ludoj, Koncerto de Kaŝi kaj Halina. Post vespermanĝo okazis Koncerto de Amira, koreo. (ĉe urba komunuma centro)

Mi partoprenis en la prelegoj de Gabor, kies titolo "Enmigrado en Eŭropon kaj la Eŭropa dilemo", de Ilona Koutny "Esperantolingva bildo de la mondo", de Gong Xiaofeng "Kapabligo de transkultura komunikado kaj Esperanto-instruado/lernado". De la 16:00-17:00 ĉeestis en la Koncerto de Kaŝi kaj Halina, vespere al la koncerto de Amira el Koreio, multaj koreoj kolorigis ŝian koncerton.

La 10-an de julio (merkredo)

Hodiaŭ estas Tuttaga ekskurso. Ankaŭ mi ĉeestis en ĝi.

Ni buse vojaĝis en profundan montaron, rigardis al iu lago, teritorio de reĝo, poste atingis regionan parkon, kie troviĝis alta turo, rigardejo kun stranga formo, eblis supreniri. Ni ĉiuj grimpis sur la unikan turon. Supreniri kaj malsupreniri estis ege terure por mi. Konstruo de la Turo ne estis perfekta, sed unike simpla, kio forte terurigis min. Sed de sur tiel arta loko, vasta bela panoramo prezentiĝis al ni. Poste ni promenadis en montaron, kie raraj montaraj floroj multe floris. En Birzai-kastelo, ni ĝuis biergustumadon kun folklora prezento de litovaj kaj Esperantaj kantoj. Agrabla estis promeno inter originalaj flor-ornamaĵoj en bienpalaco de la urbeto Pakruojis, kie ni tagmanĝis bonguste.

De la 20:00-21:00 ni ĝuis koncerton de Jogaile en la urba komunuma centro. La kantisto ankoraŭ estas 17-jaraĝa, ŝia Esperanto estas tre tre alloga kiel muziko, ankaŭ muziko estas perfekta. Ŝi devenas de Koreio. Sur la kovrilo de Esperanto, oktobro 2019, ŝi aperas kun floroj.

La 11-an de julio (ĵaŭdo)

De la 10:00 komenciĝas ĉiuj programeroj.

Ankaŭ hodiaŭ prelegoj multas, entute 13! Alie ĉiunivelaj Esperanto-kursoj, Kvizo Aŭtora horo kun Mikaelo Bronŝtejn kaj Tatjana Auderskaja, Spektakleto, Intelektaj ludoj. Violonkoncerto de Fransoazo kaj Mikaelo Bronŝtejn.

Mi partoprenis en la prelego de Gabor, kun temo "la spertoj de mia *indramang*-metoda lingvoinstruado". Kelkaj aŭskultantoj parolis sur la podio siajn opiniojn. Poste mi havis parolon kun la estona prezidanto kaj aliaj esperantistoj. Feliĉe en tiu ĉi tago mi estis invitita de mia amiko tagmanĝon kun du profesorinoj, ni babilante prenis tre bongustajn ĉinajn pladojn. Posttagmeze mi ricevis proponon de amikino, kiu morgaŭ forlasos al Ĉakĉak por partopreni en ILEI kongreso kun amikoj, ĉi vespere prezenti Te-ceremonion al ili, volonte mi akceptis ŝian proponon. Reveninte al la ĉambro mi preparis necesajn aĵojn pri mia prezentado. En la halo de ilia loĝejo oni atendis min, preparinte ne atenditajn manĝaĵojn kiel festenon! Ni unue manĝis luksajn manĝaĵojn kaj poste mi prezentis japanan ŝaŭmigitan te-ceremonion, klarigante historion de teo. Ĉiujn partoprenantojn mi regalis per teo kun ĝojo. Miaj gastoj estis ĉirkaŭ dudek homoj. Koran dankon pro la invito kaj regalo! Bonan vojaĝon al Ĉakĉak!

La 12-an de julio (vendredo)

Hodiaŭa prelego estas 12!

Alie okazos ĉiunivelaj Esperanto-kursoj, kaj Szanne Roy informos pri la UK 2020 en Kanado, Intelektaj ludoj kun Tatjana "Litovo-patrujo mia", Filmo de Roman Dobzynski.

De la 20-21 Koncerto de Zuzanna.

Mi partoprenis en la prelego de Gabor, kies titolo estas "La Espero", poste mi iris al la prelego de Mikaelo Bronŝtejn "SEJM legenda". Poste mi iris al la informo pri la UK 2020 en Kanado. Morgaŭ matene ni devas forlasi nian ĉambron, iom frue revenis al la ĉambro kaj aranĝis ĉiujn aĵojn.

La 13-an de julio (sabato)

Hodiaŭ estas la lasta tago de la 55-a Baltitaj Tagoj de Esperanto, tamen ni estas lernemaj, ĉar ok prelegoj okazas ankaŭ hodiaŭ. Alie, estas ĉiunivelaj Esperanto-kursoj, pupista horo de Anna Striganova.

De la 16:30-17:30 Solena fermo de BET-55.

Por mi ĉeesti en ĉi-tiu BET estis unuafoje, manĝaĵo ne estis tiel luksa, sed estis tre bone por korpo, homoj estis mildaj, amemaj kaj lernemaj, klimato estis tre agrabla, mi forgesis japanan varmegon someron. Enhavo de la kongreso estis tiel same kiel UK, aŭ pli ol! Mi tre ŝatas tiun ĉi kongreson, se mi havus ŝancon, denove mi ĉeestos. Kaj tie mi deziras prezenti teon kaj paroli pri teo.

Koran dankon, karaj prelegantoj kaj organizantoj!

(daŭrigota)

Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (4)

Okazaki Kastelo

(岡崎城)

Okazaki Kastelo troviĝas en la centro de la urbo *Okazaki* kiu estas la tria granda urbo en *Aiĉi* gubernio, kaj situas orientsude ĉ.35 kilometrojn de la urbo Nagojo .

(La urbo *Okazaki* : loĝantaro 387,294 areo 387.20 km² (2019))

[ĝenerala informo]

TOKUGAŬA Iejasu, kiu estas unu el tri herooj en la Militregna Epoko, naskiĝis en *Okazaki* Kastelo. Ĝi havas kastelan ĉefturon kaj estas en *Okazaki*-parko.

En la parko estas videblaj la puto kiu estis uzata por bani la ĵus naskitan bebon, la teramaso de postnaskaĵo je la naskiĝo de *Iejasu*, la monumento de admono postlasita de *Iejasu*, la fosaĵo kaj la terbarilo ĉirkaŭ la kastelo.

[historio]

La origina kastelo en *Okazaki* estis konstruita en 1452 de *SAIGO Joritugu* kiu estis la estro de ĉi distrikto (*MIKAŬA* 三河).

En 1531 *MACUDAIRA Kijojasu* (avo de *Iejasu*) translokiis la kastelon al la nuna loko kaj de tiam ĝi nomiĝis *Okazaki* Kastelo.

En 1542 *TAKEĈIJO* (poste *Iejasu*) naskiĝis je la kastelo, tiam ne troviĝis ŝtonmuro sed nur terbalilo. *Iejasu* estiĝis garantiulo je la 6 jaraĝo de *ODA Hidenobu* (patro de *Nobunaga*) kaj poste je la 8 de *IMAGAŬA Joŝimoto* kiu estis la estro en la distrikto *SURUGA* (駿河).

En 1560, tuj post kiam *Joŝimoto* estis mortinta je *Okehazama*, *Iejasu* revenis al *Okazaki* Kastelo kiel la estro.

En 1570 *Iejasu* translokiĝis al *Hamamacu* kaj la unua infano (*Nobujasu*) fariĝis la estro de *Okazaki* Kastelo. En 1579 *Nobujasu* memmortis, kaj post tiam liaj ĉefaj vasaloj estris la kastelon.

En 1590 *Iejasu* estis translokita al Kantoo, kaj *TANAKA Joŝimasa* (la feŭdulo de *TOJOTOMI Hidejoŝi*) estriĝis kaj vastigis la kastelon kaj faris la

fortikan ŝtonmuron kaj bontenadis la urbon *Okazaki*.

En 1601 *HONDA Jasuŝige* (ĉefa feŭdulo de la familio *Tokugaŭa*) estriĝis post tiam kiam *Iejasu* fariĝis ŜOGUNO. Post tiam, la kastelo fariĝis tre grava kastelo kiel la kastelo de naskita loko de *Iejasu*.

En 1617 kastela ĉefturo estis konstruita.

En la komenco de la *Meiĵi* Epoko, en 1873-74 la kastelo estis detruita plej parte, kaj restis nur postlasita ŝtonmuro kaj fosaĵo. Ĉar multaj civitanoj forte esperis la kastelan ĉefturon, nuna kastelo kiu tute similas al iama formo, estis rekonstruita tri-tavole kaj kvinetaĝe per ferbetono en 1959.

Kiel vojaĝantoj suprenrigardis la kastelon en *Jedo* Epoko, nun ankaŭ ni povas vidi la saman elegantan figuron.



[utilaj informoj]

Malfermo: 09:00-17:00 (16:30 por eniri)

Fermo: la 29a de decembro~la 3a de januaro

Enirbileto: 200 enoj (kun enirbileto de la muzeo *Iejasu*, 510 enoj)

Trafiko: piede 15minutoj de la stacidomo *Higaŝiokazaki* (*Meitecu* linio)

HPadreso: <https://okazaki-kanko.jp/okazaki-park/>

[*Iejasu* muzeo (Domego de *Mikaŭa*-samurajo)]

La muzeo situas tuj najbare de *Okazaki* Kastelo en la parko *Okazaki*.

La domo estas la muzeo kie oni povas studi pri la ŝoguno *Iejasu* kaj samurajoj naskiĝintaj en *Mikaŭa*. La plej majstra peco estas la moviĝanta dioramo kiu reaperigas la militon de *Sekigahara*. Oni povas prove surmeti la kaskon kaj kirason de samurajo.

(Suzuki Joŝihiko)

PRELEGO DE DEGUCHI KYOTARO

Nakayama Akiko

En la 8a de septembro en *Toyohasi* okazis prelego de Deguchi Kyotaro. Jam de antaŭe mi konas lian nomon. Kiam mi estis juna, en la urbo *Sizuoka* lia prelego okazis, kaj tiam fervore oomotano akompanis min al la prelego. Mi memoras, ke mi aŭskultis lian rakonton de la vojaĝo tra la esperantujo. En 1965 lia verko “*Esuperanto-koku-syûyû-ki*” (Miaj Vojaĝoj en Esperantujo) eldoniĝis.

Ĉi-foje en la prelego li kun fotoj parolis. Li estas 84-jaraĝa, tamen pli ol tri horojn li starante prelegis. Interalie jenaj punktoj min interesis. Li ludis la rolon de svatanto por 4 paroj de internacia geedziĝo. Oomoto nun klopodas kreskigi posteulojn kaj disvastigi Esperanton al junuloj. Ne nur li sed ankaŭ aliaj verkas pri Oomoto kaj Onisaburo. Plie Mizuki Sigeru verkis pri Oomoto karikature. Oomoto havas amikan rilaton kun aliaj mondaj religioj por la celo de paco en la mondo.

Mi gaje lernas Esperanton kun oomotanoj unufoje en monato uzante la materialojn: “Esperanto per ekzercaro por japanlingvaj komencantoj” kaj “Esperanto, komuna lingvo facile lernebla por ĉiuj kun bildoj.” Mi ne estas oomotano, sed feliĉe mi povis havi ŝancon aŭskulti lian prelegon. Dankon!

►編集後記

○皆様におかれましては、台風被害はいかがだったでしょうか。被害に遭われたかたには心よりお見舞い申し上げます。大きな災害について「未曾有の」と表現されることがなくなり、これがむしろ普通になってしまうのでは、と危惧されます。○藤本日出子さんから、ヨーロッパ紀行の報告をよせていただきました。今号では紙面の都合で写真を掲載できずに残念です。全3回にわたって連載しますので、次号以後にご期待下さい。○今年のザメンホフ祭は、いつもとはかなり趣を異にして開催されます。楽しんで参加しましょう。(山口)

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。

ZAMENHOFA FESTO 2019

国際語エスペラントを提唱したポーランドのザメンホフ博士を記念して、
この地方のエスペランティストが今年は岩倉の「えほんのもり」に集まります

12月14日（土）15時開場、15時半から

・講演とオカリナと、
そして遊びと歌と

・知ってるメロディーでエスペラントの歌をみんなで
"Esperanto estas la lingvo por ni!"
・ビンゴで遊ぶ
・笑顔で集合写真、花の贈呈など

オカリナ四重奏団ボーニ・アミーチさん

2012年に オカリナ四重奏団“ボーニ・アミーチ”を結成。
2015年「オカリナフェスタ in 岐阜」最優秀賞受賞。
2016年「第4回楽しいオカリナコンクール」アンサンブル部門第2位受賞。
2018年「第5回日本オカリナコンクール」合奏部門第2位受賞。
2015年、2019年4月イタリア ブードリオ（オカリナ発祥地）
オカリナフェスティバルに出演。



清水美穂 さん 講演「エスペランティストを探して」



1955年名古屋市生まれ、1978年から81年まで旧ユーゴスラヴィアに留学。1986年に名古屋大学大学院で修士課程修了。専攻は「19世紀後半ボスニア・ヘルツェゴヴィナ史」。
2004年から約10年間、ボスニアで、日本学の講師をつとめる。
クロアチアのエスペランティスト、スポメンカと親交があり、今年の9月から10月にかけてモンテネグロとボスニア・ヘルツェゴヴィナを訪問し、現地のエスペランティストの活動を追跡しようと試みる。

ザメンホフ祭 2019・名古屋エスペラントセンター主催

会 場：「えほんのもり」岩倉市下本町下市場160-5（岩倉駅の東口を南へ。三菱UFJ銀行を過ぎて
跨線橋の手前20mを左折、コーポ伊藤の階下）

参加費： 1,000円

連絡先： ☎ 090-6075-0135（えほんのもり）

yamadapiano@mac.com（山田）

夕食会： 会場から徒歩10分の名古屋コーチンの店「松月」で 4,500円

・夕食会参加の方は上記連絡先へ 12月10日までに ご連絡ください

